

## 第4回酒田市史跡山居倉庫整備基本計画策定委員会 議事概要

日時：令和6年11月7日（木）10：00～12：00

場所：酒田市総合文化センター412号室

### 1 開会

事務局	開会の前に、委嘱状の交付を行う。 昨年度委員のうち3名が退任。新年度から、3名から委員へ就任の承諾を得た。委嘱状の交付は机上配布にて代えさせていただく。
事務局	開会あいさつ。

### 2 市長あいさつ

市長	市長より開会のあいさつ。 本来は8/21に委員会開催予定だったが、7/25の大雨災害を受けて日程を調整させていただいた。本整備基本計画は、令和5年3月に策定した保存活用計画との整合性を図りながら策定を進めている。市民の関心も高く、保存を適切にしながら、市民、観光客がいままでよりさらに良さを感じ取っていただけるような整備に向けて、皆様より忌憚のないご意見をいただきたい。
----	--

### 3 出席者紹介

事務局	名簿のとおり、委員、オブザーバーに出席いただいた。事務局より名簿順に紹介。 欠席委員の報告（2名） リモート参加委員の報告（1名）
-----	---

### 4 報告事項

事務局	規定により座長を委員長にお願いする。
委員長	大雨の被害が大きかったと存じ上げている。被災された方々へのケア、フォローに努めていただきたい。 その影響もあつてか、本委員会での計画策定の議論はやや遅れ気味で、残り1年半で計画の中身を練り上げて、ご意見を反映させて、中身を決めていかなければならない。本日の円滑な議事進行にご協力いただき、事務局でも計画策定の作業が円滑かつ効果的に進むよう準備をお願いしたい。

#### （報告事項1）第4章 基本方針について

事務局	事務局より資料1について説明。 今後、資料参考に示された16項目の整備項目の議論が必要になる。その前提として、前回委員会で協議した基本理念、基本方針について再確認。
-----	---

委員	改めて読むと、基本理念の下の文章、「酒田を代表するシンボル」が重複している意味にとれて読みづらい。「酒田の歴史文化のシンボル」、「酒田のシンボル」など、読みやすく検討していただきたい 史跡の保存・整備における年代設定に、「現状維持することを目指す」とあるが、物販施設などは含まない。農業倉庫として使用された最終段階を整備の基本的な年代とする。表現の見直しが必要。
事務局	基本理念は事務局で検討し、次回委員会で提示する。 年代設定は、令和4年度までの状態を現状維持するという意味。表現について事務局で検討する。
委員長	価値のとらえ方が、凍結保存であると誤解されないように文章の整理が必要。 前回委員会では、どこにどのような調査研究が必要になるのかわかるように明示してほしいという意見があったと思う。
事務局	今後の計画策定の段階で提示する予定。

### (報告事項2) 酒田市山居倉庫整備基本計画策定委員会分科会の設置について

事務局	事務局より資料2について説明。 調査及び検討を行うために、保存整備を協議する保存分科会と活用等を協議する活用分科会の2つの分科会を設置したい。目的、期間、進め方、要綱改正案を説明。
委員	「委員若干名」はどの程度を考えているか。
事務局	全ての委員が保存、活用どちらかの分科会に参加いただく。保存4名、活用8名を考えている。
委員長	委員会が総会としての役割を持ち、深める必要があることを分科会で審議を行う。それはあくまで計画策定にフィードバックさせるものであって、中身を具体化する作業が行われるという理解でよいか。
事務局	その通り。
委員長	資料2に「分科会で協議した内容は、会長から委員長へ報告する～」とある。規定に書かれていないが、どのように担保されるのか。
事務局	分科会の運用規定で担保したい。完成次第、お配りする。
委員	委員会と分科会の開催頻度、ボリュームのイメージをお聞きしたい。
事務局	少なくとも、次回委員会の前に、分科会を1回以上行いたい。
委員長	分科会と委員会の流れ、どのタイミングで何を決めていくのか、全体で共有できるスケジュールを明確に示すこと。
事務局	委員会、分科会、整備基本計画の16項目の検討を含め、早急に作成する。

### (報告事項3) 令和6年度事業の状況について

事務局	事務局より資料3について説明。
-----	-----------------

	<p>耐震診断・地盤調査、ケヤキ並木樹勢回復、自動火災報知設備設置を実施。</p> <p>地盤調査は2地点を実施、耐震診断は1～2、10～12号棟の5棟の診断を実施。診断結果は次回委員会、分科会で報告したい。</p> <p>ケヤキ並木樹勢回復は実証実験として、1～5号棟前のケヤキについて、3パターンの樹勢回復の施工を開始した。施工後、経過観察の上、よりよい方法を元に順次進める。</p> <p>自動火災報知設備は施工業者が決定した。構成要素の建物すべてに設置する。</p>
委員	表記以外の耐震診断・地盤調査は実施するのか。川沿いの建物も計画に入っているのか。来年度以降の実施箇所は示せるか。
事務局	残りの倉庫、研究室、事務所棟も含めて、来年度の補助金申請をしている。来年度の実施箇所は資料4-4、30頁に示しているが、予算次第になる。
委員	地盤調査は、川沿いで何かをする場合、土地的な問題がないのか。
事務局	資料3-1、9頁に今年度の実施箇所を示している。また、県道整備の際に新内橋の袂で行った調査結果があり、それらによって地盤調査は今年度で完了する予定。
委員	保存活用計画の議論で、県の護岸調査が出ていたと思う。赤場を支える石垣などがはらんでいて、調査、補修をするべきなのか。県と市の調整はうまくやっていただきたい。
事務局	整備基本計画の16項目の検討の中で、必要であれば計画に入れていきたい。
委員	赤場の石垣は孕みなどがみられる。調査対象としてピックアップされているという認識でよろしいか。
事務局	委員と現地を確認した。まずは経過観察というアドバイスをいただいている。
委員	ケヤキ樹勢回復について3パターンの試験施工を行うということだが、1～2号が土壌攪拌・敷石撤去・芯止め剪定、3～5号棟は支障枝・危険枝の剪定のみで、手法が違う。3～5号棟が芯止め剪定ではない理由は何か。1～2号棟と同様、芯止め剪定を行わないと、土壌攪拌、石敷撤去の評価ができないのではないか。
事務局	3～5号棟は最低限の管理だけでどのようになるのか見たい。
委員	総合的に見て評価されるのであればよい。
オブザーバー	1～2号棟は支障枝剪定、芯止め剪定、敷石撤去、土壌改良を行う。3～5号棟は危険枝や屋根にかかる枝を剪定、芯止め剪定を行う。敷石を取ると重機が通れなくなるので一部撤去は見送る。隣接する民家にかかる枝も切る。

委員	全て芯止めは行うということで理解した。そのパターンであれば、比較できる。
委員長	資料3と資料3-2で文言を統一すること。「危険木」「支障木」が誤りで、「危険枝」「支障枝」が正しい。

## 5 協議事項

### (協議事項1) 令和7年度山居倉庫整備事業について

事務局	事務局より資料4について説明。 令和7年度は、電源一元化整備、雨樋修繕、消火栓修繕、耐震診断を予定する。
委員	雨樋の修繕は必要だが、本質的価値として元の材料を守る部分と、長寿命化を考えて修理する手法を考える必要があると思う。どこまでが価値がある材料で、どこまでが後世に交換されたものなのかなど、細かい部分を分科会で資料提示して設計を進めていただきたい。
委員	電源一元化整備について、設計は既に進めているのか。
事務局	今年度予算で設計は進めている。
委員	改修といつつ、見栄えや規模感が変わることも想定される。設計内容の確認は分科会で行うのか。
事務局	設計内容は分科会に出したい。改修は現状変更が伴うので、文化庁との協議も行っている。電源一元化については、赤場を予定しているが、基礎調査などの結果により場所が変わる可能性もある。
委員	入口に近く、いろは蔵パークからの見え方、水辺側の設えなど、全体でみる必要があるので、分科会で協議の場があれば意見したい。
委員長	6年度事業、7年度事業に対して、現状変更の許可申請がいつおりののか、分科会の協議はいつなのか、整理して共有する必要がある。
副委員長	赤場と板倉は耐震診断を行わない。全体改修が前提なのか。赤場近くの石垣の調査、改修の考え方も提示する必要があるのではないかと。
事務局	現在、設計業者が調査中。調査結果が出次第、分科会に提示したい。
副委員長	どのような調査を行っているのか。
事務局	基礎の鉄筋有無、周辺の目視。約5tの電気設備重量に耐えられるかなど。
委員	電源一元化について、配線は地中か架空か。
事務局	地中を予定している。
委員	雨樋について、壊れていない部分にも落葉が溜まり、雑草が生えている。維持管理とセットで考えていく必要がある。維持管理のしやすさ、し続ける仕組みやソフトも意識して考える必要がある。
事務局	検討する。今回は清掃も考えたが破損部分も多く、いっそ改修の必要があると判断した。

(協議事項 2) 全体計画及び地区区分計画について

(協議事項 3) 動線計画について

事務局	事務局より資料 5、資料 6 について説明。 ゾーニング計画、施設ゾーニング計画、動線計画を説明。
委員	ゾーニングについて、大枠はよいが、「学ぶ」と「知る」は一連の行為なので分けるのはネーミングとしてはよくない。「知る」は交流や賑わいになるのではないかと。「守る」も神社だけではなく、当初から宗教的なエリアとしてあったということでもよいのではないかと。 1、2、10 号棟を展示体験としているが、実際は離れている。下屋部分を有効に活用することで、奥に人が誘導できる。下屋部分は学ぶゾーンをつなぐ使い方でもよいのではないかと。
委員	30 年後の将来的なゾーニングではピンとこない。10 年単位でのゾーニングの考え方もあってよいのではないかと。 水辺に色を塗っているのは、積極的に使うという意味か。対岸は史跡範囲外だが、バッファゾーンの感覚で用途の意思表示ができないか。 市民にはどのエリアを積極的に使ってもらえるのか。
事務局	インフォメーション、ガイダンスは 10 年以内で整備したい。市民交流も同じくらいのスパンで作っていききたい。 耐震診断はほぼすべて NG と考えている。全ての耐震補強を行うのは多額の費用がかかるので、直近 10 年では下屋を耐震補強して、中を見ていただくような案を考えている。
委員	下屋やオープンスペースを積極的に活用する例があるのではないかと。緑地広場は使うゾーンに位置付けてもよいのではないかと。そういった議論も分科会で行うのか。
事務局	短期・中期・長期的なゾーニングを作り、分科会で協議できればと考える。
委員	下屋は全体をつなぐプラットフォームになる。全体の一体感を象徴的に示すのは下屋とケヤキ並木で、見学者はそこに感嘆の声をあげる。下屋はつながりゾーンとして、事業全体を印象付けるような位置づけでもよいのではないかと。
委員長	事業を見せる上での事業という視点をいただいた。1 棟、2 棟を最初に耐震補強する、下屋のみを耐震補強することは可能なのかなど、段階的な耐震補強を進める手法を検討していただきたい。
委員	相馬楼は山居倉庫と同時期の建物で、平成 12 年に改装を行ったが、先日の大雨などでは雨漏りが起きている。収益性がないと運営が追いつかないというのが一番大きな問題だと思う。 下屋は雨が降かからず、通路的な役割と、ちょっとしたイベントができそうな広さがある。イベントは集客性があるので、市民発表や飲食などに

	<p>活用できるスペースがあるとよいのではないかと。</p> <p>入口に分離帯ができて車で入りづらい。風通しがよくなるとよいと感じている。</p>
委員	<p>相馬楼は回遊ルートに入っているのか。入っていないのであれば、山居倉庫と同時期の建物としてストーリー性もあるので、入れてほしい。</p>
委員	<p>入口が1か所というゾーニングで進んでいる。回遊できるように。回遊ルート図も回って戻れるように計画していただきたい。</p>
事務局	<p>事前説明でも、各委員からストーリー性があるものという意見をいただいている。次回までに提示する。</p>
事務局	<p>欠席委員からのメール紹介。</p> <p>山居倉庫を維持するためには、かかる費用を行政や補助金頼みでは持続可能ではないと考える。使うゾーンを有効活用し、しっかり稼ぐことが必要。民間による事業導入した場合、生み出されたもの、お金や新たな付加価値を地域のために使う、社会に還元していく姿勢も大事な視点だと思う。自社だけ儲かればよいのではなく、各企業もそれぞれのノウハウや得意とするものを、山居倉庫と共通財産が酒田の未来四方良しになればよいと考えている。</p>
委員長	<p>クラウドファンディングなども市は想定しているか。</p>
事務局	<p>来年度以降の修繕工事に関しては、クラウドファンディングなども視野に入れている。</p>
委員長	<p>計画書は最終形を書く構造になっているが、そこに至る段階を経て到達するものなので、全体像を計画で描くことが大事になると思う。</p> <p>動線計画でモデルコース作成とあるが、ストーリーをどの程度、いくつ想定するのか。滞在時間との関係もある。</p> <p>ゾーニングの名前と順番を再検討いただきたい。つながりが見えない。皆がイメージを共有できるように、分科会で議論していただきたい。</p>
委員	<p>保存会・守る会のような市民団体にはどのように関わってもらえるのか。</p>
事務局	<p>保存会はまだない。今後組織していく必要があるのかもしれない。観光ガイド協会は活動しているので連携していきたい。</p>
委員	<p>市民の意向を計画に落とし込み、愛される、自慢になる史跡にしていかなければならない。</p>
事務局	<p>将来的に山居倉庫を愛していただける組織は必要となるが、市民への広報が不足している。ゾーニングも見えてきたので、どのように市民がかかわって保存・活用していくのか、ようやく話ができる段階になった。</p> <p>まずは市民の方々へ協議内容をお知らせして、意見を頂戴し、市民の方々から愛される施設にしていきたい。</p> <p>計画以外でも、シビックプライドの部分を含めて、活動を考えていきたいと思う。</p>

委員長	HP 上で、本会議の議事報告を行っているのか。
事務局	HP では資料を含めて公開している。

委員長	全体を通じて意見などがあれば。
委員	第5章の個別計画について、16項目が示されているが、全部網羅しなくてもよい。計画期間内に実施するものだけをしっかり示すこと。第1期、第2期と分けする意味で掲載するのはよいが、網羅主義にならないように注意すること。 市民管理の導入は将来のことではなく、今すぐやることと思う。史跡管理の市民ボランティア募集など、できることはたくさんあるので着手していただきたい。
委員	商業施設ができることで人流が変わると思われる。いつ完成するのか、完成してからの状況報告をお願いしたい。
事務局	いろは蔵パークのオープンは3月後半を予定している。人流、バスの入り方など、これから詰めていき、1年間観察したい。
委員	市外・県外の方が、商業施設を目指してくるのか、文化施設を目指してくるのか、観察をお願いしたい。
委員	プロモーションについて、行政も行うと思うが、民間の力も借りて頑張りたい。 基本方針について、「歴史文化」「文化観光」はよいとして、「地域」がふわっとしている。「地域生活」としてはどうか。山居倉庫が地域生活にとって大事な資源といってもよいのでは。分科会で議論していただきたい。エリアマネジメントの考え方を取り入れていただきたい。いろは蔵、鑑屋、相馬楼など、一緒に捉えて記載し、気運を高めることも必要と思う。
委員	山居倉庫は生活というイメージがない。酒田エリアに格を与える資源ということを表現できないか。酒田の高い文化を教えてくれるものであることを市民に伝える必要がある。
委員長	「歴史文化」「文化観光」「地域」のワードは、もう少し心に響くようなものに見直す必要があると感じた。再検討していただきたい。

## 6 その他

事務局	次回委員会は3月中旬を予定している。 その前に分科会を実施する。分科会はリモートを考えている。
委員長	進行を事務局へ返す。

## 7 閉会

事務局	閉会のあいさつ
-----	---------